

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／青葉 暢子

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

教員の資質能力の向上のためには、個々の学生が、授業内容について理解を深めて、生徒や児童にとって、授業内容がどう関わってくるのか常に考えることが必要である。このことは、大学教員から教わるのではなく、学生が主体的に考える姿勢こそが重要であると考え。したがって、授業内容については、教員養成大学だからといって内容を変える必要はないと考える。授業方法については、一方的に講義するのではなく学生が主体的に考えるよう工夫している。成績評価については、授業内容の理解だけでなく、学生が授業内容を発展させられているのかどうかを見て評価したい。

2. 点検・評価

学生がどの程度授業内容を理解しているかは課題を出すことで知ることができる。課題を繰り返す中で、授業内容についての理解が深まり、学生からの質問も増えた。大学生のうちはまだ能力が伸びるのだと実感した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

今年度は、学部の4年生が3名、修士2年の院生が1名いて、4名は教員採用試験の受験に向けて勉強中である。4名が採用試験に合格できるように指導するとともに、卒業論文、修士論文の指導も行う。

2. 点検・評価

今年度は、学部4年生のゼミ生3名のうち、2名が教員採用試験に合格した。学部4年生と大学院2年生とも無事、修士論文、卒業論文を提出した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

昨年度に引き続き、非正規雇用の研究を行い、6月に生活経済学会で研究発表を行うことが決まっている。今年度は、学会報告を論文にして投稿を行う予定である。

2. 点検・評価

予定通り研究発表を行い、投稿済みの論文を現在修正している。非正規雇用の研究について、一定の成果ができた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

大学院教務委員会委員、授業評価専門部会委員として大学院教務の業務を行う。
7月に、大学院の定員を充足するために福岡大学、久留米大学を訪問する予定である。

2. 点検・評価

大学院教務委員会委員、授業評価専門部会委員として大学院教務の業務を行った。
また大学院定員充足のため、福岡大学、久留米大学を訪問した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

フィールド研究で、北島小学校と連携して授業実践を行う。
徳島県土地利用審査会委員、徳島県環境審議会委員、徳島県リサイクル認定制度検討委員会委員、徳島市中小企業振興対策委員会委員

2. 点検・評価

徳島県土地利用審査会委員、徳島県環境審議会委員、徳島県リサイクル認定制度検討委員会委員、徳島市中小企業振興対策委員会委員を務め、
専門知識を用いて地域貢献を行っている。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)